

投稿コーナー

みんなはどう？

暮らしに身近なことをテーマに、
皆さんから寄せられたアイデアを紹介するコーナーです。

第4回 テーマ 家庭で行っている災害への備え

36件のアイデアが寄せられました
このページに関するお問い合わせは広報課 ☎211-2036

日常の工夫

廊下や扉、備蓄品の保管場所に蛍光シールを貼り、停電してもすぐに通路が分かるようにしています。(清田区 匿名 20代)



水道が使えなくなったときに備えて、常にお風呂に水をためています。(北区 鈴木さん 50代)

備蓄・防災グッズ

家族の人数分のリュックサックを用意し、それぞれに懐中電灯や薬、3日分の水や缶詰などの食料を入れています。特に食品は古くならないように、消費期限を目安に4カ月に1回程度入れ替えています。



(清田区 大岡さん 60代)

冬場に災害が起こり、避難しなければならなくなったときのことを考えて、寝袋や着なくなったダウンコートを常備しています。(中央区 村上さん 50代)

電気が長時間使えないことを想定し、ろうそくやカセットボンベ、灯油のポータブルストーブなど、電気に代わるものを意識的に準備しています。(中央区 西沢さん 40代)

家族会議・近所との関わり

机の下にもぐったり、避難場所になる公園に集合したりするシミュレーションを、月1回家族で行っています。災害時に不安を感じる点の分かり、対策を立てやすくなりますよ。



(西区 阿部さん 20代)

災害時に孤立することがないように、普段から近所の人に声を掛け、顔なじみになることを心掛けています。

(西区 匿名 60代)

市の災害対策の
担当者に
聞きました！

命を守るために大切なのは 住民同士の支え合い

災害時に命を守るには、食料などの備蓄に加えて、住民同士の支え合いが大切。過去の大地震の際には、家屋の倒壊などで生き埋めになった人の約8割が近隣の住民に救助されました。普段から近所の方と積極的に声を掛け合い、助け合える関係を築いておくことが、命を守ることに繋がります。

危機管理対策課 渡部職員



↑防災の基礎知識が分かる冊子を配布中

配布場所
区役所、消防署ほか

災害の恐ろしさを体験できる

市民防災センター

地震や暴風、火災などの疑似体験を通して、防災や防火のポイントが学べる施設です。

住所
白石区南郷通6北
問い合わせ
☎861-1211



▲「地震体験コーナー」では、震度7の揺れが体験できます

備蓄に役立つ「さっぽろの水」と「非常用給水袋」を抽選でプレゼント！詳しくは1ページの広報クイズをご覧ください

ホームページでは、掲載しているもの以外の投稿もご覧になれます。

投稿コーナー みんなはどう？

検索